

知事と区市町村長との意見交換会(葛飾区)

令和2年10月22日(木)

15時50分～16時10分

○**行政部長** それでは意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からお願いをいたします。

○**知事** 青木区長、ご苦勞様でございます。連日、コロナウイルス対策でもご健闘いただいております。ご苦勞様です。

このコロナであります、今、ウィズコロナの時代ということで、新しい日常を求めながら、様々活動しているわけでございます。

都政については、今、構造改革を強力に進めてまいることといたしまして、それらを元に新しい日常、サステナブル・リカバリーという新たな視点で長期戦略も描くということで、現在進めているところでございます。

今日は葛飾区のご意見、ご要望を直接伺いするという事で、青木区長から葛飾の現状、そして今後のビジョン等も伺わせていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

○**行政部長** それでは青木区長、ご発言をお願いいたします。

○**葛飾区長** 今年もこうした意見交換の場を設けていただきまして、本当にありがとうございます。

また、小池知事には今お話ありましたけれども、コロナ対策について、本当に具体的な対策を随時発信いただきました。医療や福祉や産業、いろんな分野で具体的に組み組んでいただいております、改めて感謝申し上げます。

今も区と都は連携しているような取り組みを進めていることだと思っておりますけれども、これからもしっかりと組み組んでいきたいと思っております。

今日は3点について、ウィズコロナ、アフターコロナの状況を踏まえた対策について都との連携を図っていく、こういった観点からお話をさせていただきたいと思っております。

一つはデジタルトランスフォーメーション、今、大きな課題になっておりますけれども、これにつきまして、本区でもこの間 ICT を積極的に活用させていただいて、例えば OCR、RPA の連携による紙帳票の自動処理とか、それから全庁共通の VR の構築、それから総合アプリでサービスを提供するようなこと、それから区民サービスの向上に向けた効率化、こういった面でいろいろ組み組んでまいりました。

この間、コロナ対策の一貫として、小・中学校の ICT 化は前倒しをして、積極的に組み組ませていただいております。

そして先日、そちらにいらっしゃる多羅尾副知事とか、それから戦略政策情報推進本部の寺崎本部長さんにもお会いをして、これから葛飾区とのデジタルトランスフォーメーション、連携しながら進めていきたいということで、情報交換をお願いしたいというお話を

させていただきました。

今、オンラインの手續の話ですとか、もう待たなしたので、これからしっかり進めさせていただきますけれども、その他にも LINE を活用した取り組みですとか、それから都の 64 ある各自治体の中でも、いろんな取り組みが既に行われているというふうに思っています。

ぜひ、そうした取り組みをお互いに連携しながら、そしてまた情報提供もいただいて、一緒になって取り組んでいけたらと思っていますので、よろしくお願いします。

特に本区では今、災害時の罹災証明発行を ICT により迅速化するということについて、積極的に取り組んでいるところです。

例えばドローンの画像活用、衛星写真、GIS のデータと住民基本台帳と固定資産情報のリンク、被害状況の概要把握等を行うシステムの構築にも取り組んでいるところであります。

これは東京都の震災復興マニュアルの考え方とも一致をするわけでありまして、このシステムを有効活用するためには、例えばドローンの飛行制限、それから固定資産にかかるデータの活用範囲の拡大等、規制緩和が必要な部分もたくさんございます。

こうしたことにつきまして、ぜひ都と協力をしながら国に働き掛けるところは働き掛けをしていきたいなというふうに思っていますので、よろしくお願いします。

東京都が進める業務改革とデジタル化の推進、先日にお伺いした時も、都庁内部での取り組みについて、大変詳しい話をお知らせいただいて、また素晴らしいなというふうに思っていましたので、ぜひこれ連携しながら進めていきたいなというふうに思っていますので、よろしくお願いします。

二つ目はゼロエミッション。今、国がゼロエミッションの話が今朝も新聞に出ておりましたけれども、葛飾区では SDGs 葛飾ということで、本年 2 月に 23 区で初めてゼロエミッション葛飾を宣言させていただきました。温暖化対策への取り組みを強化させていただいているところでございます。

その他にも環境分野の取り組みについて、花いっぱいのもちづくりですとか、各種補助制度の充実も評価をいただいているところでございます。

今後も公共施設の断熱化、エネルギー効率の向上、公共施設の建設における木材の活用、小学校の木質化も今、始めようとしているところであります。

その他、再生可能エネルギーのさらなる利用促進にも取り組んでいきたいと思っています。

8 月には、区長会で発言をさせていただきましたして、23 区共同でゼロエミッションを進めましょうという提案をさせていただきました。皆さん賛成をさせていただいて、特別区調査研究機構の中で、来年度の研究テーマとしていこう。こういうことで、ゼロエミッションに向けて取り組みを加速していきたいなというふうに思っているところでございます。

ビルの屋上や壁面を活用した太陽光発電、それから小規模風力発電、それから人の歩く振動を利用した発電、いろんなものがありますけれども、いろんな都市型の再生可能エネルギーの創出、そういったことにも取り組んでいきたいと思っていますので、ぜひ都とも

連携して、ゼロエミッションの実現に向けていきたいというふうに思っています。

最後にこれいつもお願いをしている中身なんですけども、新金貨物線の旅客化です。新小岩と金町の間を結んでいる貨物線を公共交通として活用していきたい。

この間、葛飾区で公共交通網整備方針を策定いたしましたして、公共交通網の充実を進めさせていただいておりますけれども、もちろん、地下鉄の延伸ですとか、バスを中心としたバス網の整備、そういったものもございまして、ぜひ、その中心に当たる場所の JR の貨物線の旅客化、ぜひ実現をしていきたいなというふうに思っています。

この旅客化に向けては、都の長期ビジョンにおけるスマートシティの分野の施策の一つでもあります、交通物流ネットワークの形成にも大いに資する取り組みではないかなというふうに思っております。

昨年度は新金貨物線旅客化のための基金を葛飾区の中で設立をさせていただいて、積み立てを行っていくこととしました。JR ですとか、国の国交省の鉄道局等にも働き掛けをさせていただいております、一步一步、着実に前進をしてきております。

ただ一方で、やっぱり国道 6 号線との平面交差の問題とか、幾つかの課題もあります。法制度の問題もあります。そうしたことについて、ぜひ都営地下鉄、それから都電、都バス、こういった面でノウハウを持っていらっしゃる東京都と連携して、進めていきたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

自動運転技術の導入等による運転手対策とか、いろんなことございまして、これも都と連携しながら進めていきたいと思っております。

以上 3 点ですけれども、アフターコロナ、ウィズコロナの時代には必要なものですので、よろしくお願いをいたします。以上です。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは知事からお願いをいたします。

○知事 3 点、伺わせていただきました。まずデジタル化、デジタルトランスフォーメーションでありますけれども、これについては 7 月、8 月の段階で、既に区市町村の皆さんに、都のデジタル化、行政手続のデジタル化等につきましては説明も実施をさせていただいております。

ここへきて国の方がデジタルイゼーション、デジタル化を一層進めるということでございます。

改めて都のデジタル化の推進、ガイドラインも発行いたしますので、これら取り組みの参考にしていただければと思います。

それから都としても、社会や都政の構造改革を推し進めているところでございまして、そこには障害となる規制も現実にあるわけです。ぜひ区市町村と、皆さんと連携密にしまして、国への働き等を通じて、効果的な規制改革を実現していきたいと考えております。

それから災害時の罹災証明書発行についてできるだけ早く、迅速にということでございます。

まず災害がこないように、また、罹災の被害が少なくするためにも、様々な施策について連携を取りながら進めていきたいと考えておりますが、罹災証明が必要になった場合等

も、区と連携しながらデジタル化の推進を進めていくことは、罹災証明を受けるということとはご苦勞があつてのことですから、できるだけ早くというのは安心にも繋がるんだろうと思います。

現在、災害時において固定資産情報の活用ということで、それぞれの区の方には家屋台帳の情報を提供しているところであります。

東京都で整備を進めております固定資産 GIS データ、地図データであります。こちらについても提供方法等について検討もしてまいることによって、今、ご要望ありました罹災証明書を迅速に発行できることにも繋がるかと、このように考えます。

ぜひ共同して業務改革とデジタル化の推進に取り組んで、区と都がシームレスにデジタル化ができるような、そのような流れを確保していきたいと考えております。

それからゼロエミッション東京、これは葛飾の方でこれをやるんだという意思を明確に示されたということは、とても心強うございます。

昨年5月に都の方ではゼロエミッション東京の実現を宣言いたしております。そしてその12月にビジョンに加えまして、具体的な取り組みやロードマップをまとめて、ゼロエミッション東京戦略も策定をしたところであります。

東京は何て言いましても、日本で最大のCO2排出、温室効果ガスの排出地域でございます。その同じ東京の葛飾区の皆様方がこのゼロエミッションに取り組むというのは、非常にその意味でも実現に向けての一步がさらに進められるかと思ひます。

ぜひ、それぞれ連携を一層強化いたしまして、都と区が一体となった気候変動対策を展開していきたいと思ひます。

これ、気候変動危機宣言というのがあるんですが、東京都の場合はただ宣言をするだけではなくて、そこに行動宣言という形で、行動という言葉二文字を入れております。

ただ宣言をするのではなくて行動するんだ、アクションが必要だということでございますので、ここも青木区長と連携しながら、ゼロエミッション葛飾、そして東京を進めていきたいと考えております。

そして次、多羅尾副知事の方から、もう一つお話をさせていただきます。

○副知事 それでは鉄道整備について、私の方からお答えをさせていただきます。

都における鉄道等の整備につきましては、国の答申におきまして、事業化に向けて検討等を進めるべきとされた6路線を中心に、検討を実施しているところでございます。

お話の JR 新金貨物線の旅客化については、国の答申には位置付けはございませんけれども、現在、葛飾区さんが整備基金を本年設置される等、大変積極的、具体的に検討されているということは承知しております。

都には都市整備局や交通局に公共交通のノウハウもございますし、また、お話のように国道6号線の平面交差部分は、現在は一日数回貨物列車が通る時だけ踏切が閉まるわけでございますけど、旅客化した場合には1時間に何回も踏切が閉まるということになるわけで、これはやはり国との協議も必要になってくると思ひますので、こういった課題についての研究も必要かと思ひます。

引き続き、都としてもいろいろなご協力をさせてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは今のお話を受けまして、青木区長からいかがでしょうか。

○葛飾区長 今、それぞれ具体的にご発言をいただきまして、本当にありがとうございます。

今回のこのデジタルトランスフォーメーションにつきましても、それからその次のゼロエミッション、それから新金線の活用、それぞれやっぱりアフターコロナ、ウィズコロナを踏まえて、非常に重要な施策だというふうに思います。

ただ一方で、大変国や都との連携が必要な対策でありますので、ぜひこれからもよろしくお願い申し上げます。

それから最後に、やっぱり今の状況、新しい日常ですとか、そういった状況になっていくわけですし、これからは社会が大きく変化をするだろうというふうに思っています。

これを乗り切るためには、やはり構造改革をしていく必要があると思いますので、それについても、小池知事と連携しながら進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○行政部長 青木区長、どうもありがとうございます。それでは最後に知事からお願いをいたします。

○知事 ありがとうございます。連携を深めるということは情報を共有すること、また、成功、先行事例、これらを参考にしながら効率的な、効果的な、また、スピード感が必要なものばかりでございますので、これらも連携しながら進めていきたいと思っております。

そしてまた長期戦略や来年度予算の編成等に当たりまして、本日のご意見、参考にしていきたいと考えております。今日もありがとうございます。失礼します。

○行政部長 それでは以上で終了いたします。本日はご多用のところ、どうもありがとうございました。